

令和4年度第2回郡上市市民協働活動審査会 要録

日時:令和4年8月30日(火) 12:50~13:50

場所:郡上市総合文化センター 4階 第1会議室

出席者:委員

笠野信男、武藤里恵、乾松幸、上村英二、青木修、三輪幸司

事務局

三島政策推進課長、武藤課長補佐、木嶋係長、牧野主任

欠席者:なし

1. 開会

2. 開会挨拶

(会長より挨拶)

3. 審査会進行・審査資料に関する説明

(事務局より進行、審査方法等について説明)

4. 魅力ある地域づくり補助金交付申請に関する審査

(進行を会長に交代)

①「魅力ある地域づくり推進事業 地域課題解決部門」

六ノ里地区活性化推進の会

申請者

自己紹介と事業を説明。

六ノ里地区は、祖先から受け継いできた棚田の広がる「天空の里」である。集落の真ん中を牛道川が流れ、夏になると子どもたちの遊び場としてにぎわっていた。

しかし、近年は、子どもの数も減り、川の環境も雑木が茂る等景観が悪くなっている。そこで、規約を作って六ノ里地区活性化推進の会を設立し、牛道川近くの先人が作ったふくもち園を整備し、河川の環境づくりにも取り組み、六ノ里の活性化を図る。

内容として、子どもからシニア、都市住民まで集える環境づくりに向けた計画づくりや、旧ふくもち園周辺の支流と池の整備を行い、子どもたちが川や水に親しめる場を提供する。また、牛道川沿いの整備も行う。

事業のスケジュールについて、今年度中に支流・池周辺の雑木の伐採、池の泥上げ、清掃、土砂敷を行い、夏休み中は地元子どもたちに無料開放する予定である。また、来年度に向けての事務所及び休憩所の整備計画づくりを行う。

今後の展望は、子どもたちや親とシニアとの交流を図り、ふくもち園を中心とした六ノ里住民が集える場所として地域づくりの核となる場所づくりとしていく。また、地元の食材を提供していき、漁協との連携によって地域活性化をしていく。

事業効果は、子どもたちからシニアまでの交流、子どもたちに安心して水と触れ合える環境の提供、都市住民と地元住民との交流によって都市住民の六ノ里ファンを増加させ、移住に繋げることができる。

補助金は、支流・池の泥上げ作業、広場整地や土砂敷作業に使用する重機やダンプの賃借料と広場整地用の土砂代としての原材料費に利用する。

質疑応答

事前に送付した各委員からの質問について回答。

- 質問① ふくもち園の所有者との使用貸借等の権利関係の明確化。
- 質問② ふくもち園の所有者及び周辺の地権者との協議は整っているか。
- 質問③ 牛道川沿いの整備にあたっては、河川法の許可などが必要ないのか。
- 質問④ 寄附金等の自己資金が予算の 3 割を占める。規約に会費の項目がないので、今後の収入のメドはあるのか。
- 質問⑤ 規約で役員に会計と記載されているが、同規約に予算、事業費等を決める条文が記載されていない。

申請者 まず、①について、地権者は六ノ里地区活性化推進の会の会員であるため了承を得ている。
 ②についても、先の質問のとおり会員と協議している。
 ③は、川の側の雑木について地権者に確認して伐採する。河川に関しては現在手をつけていない。
 ④については、今の泥上げ、土砂敷に対して準備経費として寄附があったため、このお金を有意義に使い、あとは補助金を利用していく。
 ⑤については、現在規約に記載されていないが、今後追加していく予定である。

委員① 牛道川の土砂を取り除くことや川の流れを変えることはないか。

申請者 そのようなことはしない。草刈りだけはする。

会 長 市を通じて県には伝えておく必要はある。重機を使うため、心配ではある。

委員② 今年度は土砂をすくうことになるが、全体的に何年かかる計画か、どの程度の金額がかかるのか。

申請者 3 年かけて 1 年あたり 20 万円くらいを基に計画を立てていく。来年度は事務所を設置していく予定である。

会 長 自己資金の 9 万 4000 円は大体あるということか。

申請者 ある。

会 長 それでは質問は以上とする。
 ありがとうございました。

②「魅力ある地域づくり推進事業 市民活動部門(スタートアップ助成型)」 明宝ふるさとクラブ

申請者 自己紹介と事業を説明。
 このクラブ活動の趣旨の一番大きなことは地域づくりを担う人材を育成したいというところである。

 これまで中学校においては、総合的な学習の時間にふるさと学習の実施はしてきているが、限定的なものであり、生徒の発想であるとか、主体性のある活動ということについては含まれておらず、毎年同じようなことを続けていることがあった。今年度新たに、このふるさとクラブを設立し、地域に必要なやりたいことをやってみようということで、まず第一歩を踏み出したいと考えた。

 最初は、学校行事に地域の方々積極的に参加できることを目指していき、地

域行事にも今まで以上に生徒が参加できる場の設定や情報提供、そしてボランティア活動に参加するというような取り組みを初年度として考えた。このような活動をする中で生徒一人ひとりが地域の 1 人であるという意識の向上、地域への貢献心の向上それから生徒の発想力、企画力の向上を目指していく。

補助金については、活動に参加する生徒たちがボランティアで参加しているのが分かるように、ビブスを着て参加して主体感を味わわせることによって、中学校の生徒の関心が高まり加入やボランティア参加意識が高まると考えている。また、のぼりを設置することで非常に目につくため、地域の方々に活動の様子を知っていただけたと思う。更に、クラブのメンバーとボランティアで参加した生徒と分かりにくいため、腕章を現在のメンバーで 10 人分用意していくことを考えている。消耗品費について、明宝大運動会があり、そこに生徒たちがより参加できるような種目を設置するために用意している。

質疑応答

委員③ 事業計画書にある今後の展望で、軽スポーツ大会(R5)への企画・運営参加というものがあるが、この軽スポーツ大会は今までずっとしているものか、5 年度から新規で行われるのか。また、どのような団体がやっているのか。

申請者 まず、明宝大運動会は地区で 2 年に 1 度行うため、今年度の計画を立てることができ、来年度は明宝大運動会がない。そこで、来年度の予定について公民館等に何か企画があるかと尋ねたところ、軽スポーツ大会があり、それに関わって生徒達が積極的に参加していくということで、ここに位置付けた。

委員① この内容を見る限り、学校教育の教育活動の範疇を超えるものではなく、ほとんど教育課程の中で行われるものである。また、このような特色ある教育活動のために、教育委員会が特別な予算を組んでいる。2 つの理由をつけると、これをスタートアップ助成として認めていいかどうか非常に疑問である。

申請者 今の学校の状況を考えて、ふるさと学習で行われている部分とそれからもっと地域に出る部分の差別化を図ることが大きいと思う。地域行事のボランティアについては、学校としてはノータッチであり、また明宝大運動会等についても、今までは子どもたちが自主的に参加するだけというところを、生徒たちが主体になって動くというところを大きく取り上げていただければと思う。

委員① 学校の教育課程の中で行われることが大半で、学校の教育課程であっても、生徒が外や地域へ出ることも十分あるため、これは本来学校の教育委員会が関わる予算で活動されるべきであるという判断ができてしまう。

申請者 明宝中学校について、中学校がなくなってしまうかもしれないということを聞くことがある。そのようなときに、明宝の子が明宝のことをやるのは、今土台を作っておかなければならないと考える。そのために、一人ひとりにこの明宝のことを大事にしたい、明宝のことに積極的に参加したいというものを創っておくのは、今できる大事なことでないかと思っている。

委員① 大事なことは、明宝大運動会と明宝フェスティバルという地域の行事に子どもたちがもう少し企画・運営のレベルで参加して、地域の人と一緒に作り上げていくということで、ふるさとクラブの活動としてのメインになるようにしてほしい。そのために体育祭は練習の機会であり、地域の人に働きかけをしてできるだけ多くの方に参加していただくということで、この時点で地域の人との顔見知りをしっかり作っておいて、また生徒自身が何をするかというのはわかっていただいて、本番の大運

動会の時には、生徒が主役になり、明宝のために生徒が頑張るという一つの筋書きを考えてほしい。

4、5年目と続いていくと、明宝地域の中でスポーツ活動、文化活動や芸能活動の中に、その時その時の中学生が中心になって活動して、大人の皆さんと一緒にになっていくという姿になるのではないかな。

申請者 明宝大運動会は2年に1度開催、それ以降は軽スポーツ大会等で、地域に出ていくのが全くノータッチになっている。その部分に生徒たち、クラブの子が関わることができ、更にボランティアを募集して一緒に関わるという体制を整えたい。

委員① 次の年に続けていくにつれて、子どもたちの発想の自由度がどんどん広がっていく。今はいろいろ教えて、一緒にやらないといけないという事業スケジュールであるか。

申請者 1年目は手探りでやっているのと同時に、公民館の思いをかなり受けて考えた計画書である。今年度やってみて、来年度以降自分たちはこうしたいという意向がより反映されてくると考える。

会 長 それでは質問は以上とする。
ありがとうございました。

5. 閉会